

三井金属鉱業株式会社（5706）

2020年3月期

第2四半期決算説明会

2019年 11月 12日

■ 19年度業績予想

マテリアルの知恵を活かす

	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 業績予想 (11/11)	2019年度 業績予想 (8/8)
売上	4,363億円	5,192億円	4,977億円	4,770億円	5,000億円
営業利益	385億円	495億円	182億円	165億円	260億円
経常利益	310億円	112億円	178億円	140億円	260億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	187億円	△7億円	47億円	50億円	170億円
フリー キャッシュフロー	△141億円	121億円	△41億円	0	10億円
設備投資	377億円	405億円	361億円	370億円	410億円
自己資本比率	33.5%	32.4%	32.5%	32.8%	34.5%
NetDEレシオ	1.10	1.11	1.15	1.18	1.07

■ 19年度上期決算

マテリアルの知恵を活かす

● 19年度上期売上・経常利益 対前回見込 (8/8)

(単位：億円)

	19年度上期		19年度上期見込(8/8)		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	823	52	840	55	△17	△3
金属	837	8	800	11	37	△3
自動車部品	461	1	460	0	1	1
関連	533	4	540	4	△7	0
その他調整	△273	△17	△260	△15	△13	△1
合計	2,381	50	2,380	55	1	△5

● 19年度上期売上・経常利益 対前年同期

(単位：億円)

	19年度上期		18年度上期		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	823	52	868	117	△44	△64
金属	837	8	844	△31	△7	40
自動車部品	461	1	505	19	△44	△18
関連	533	4	614	21	△81	△17
その他調整	△273	△17	△324	△15	51	△2
合計	2,381	50	2,506	110	△125	△61

■ 19年度通期見込

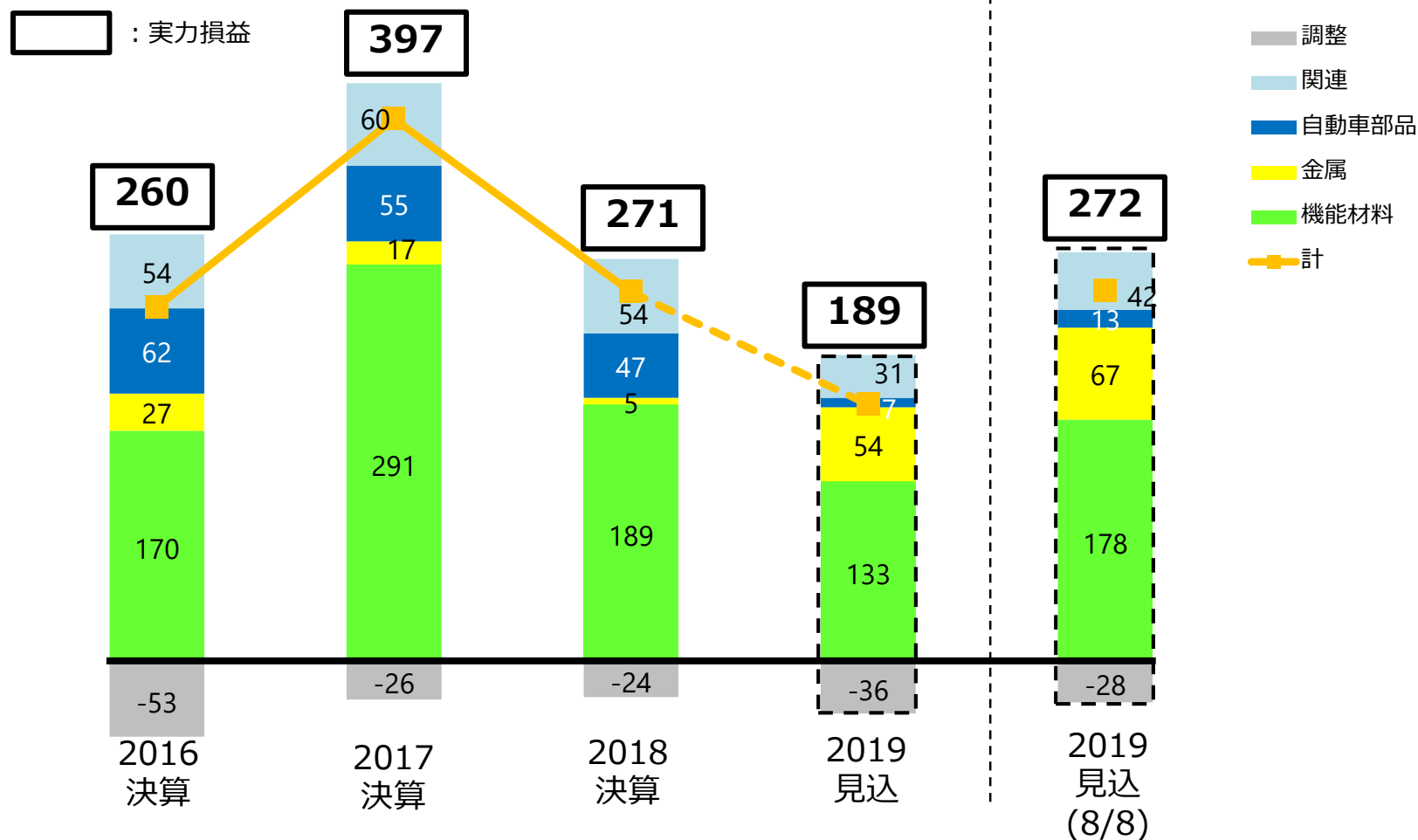
● 19年度通期見込 対前回予想 (8/8)

(単位：億円)

	19年度通期見込		19年度通期(8/8)		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	1,640	111	1,800	178	△160	△67
金属	1,640	31	1,620	55	20	△24
自動車部品	930	7	990	13	△60	△6
関連	1,180	27	1,230	42	△50	△15
その他調整	△620	△36	△640	△28	20	△8
合計	4,770	140	5,000	260	△230	△120

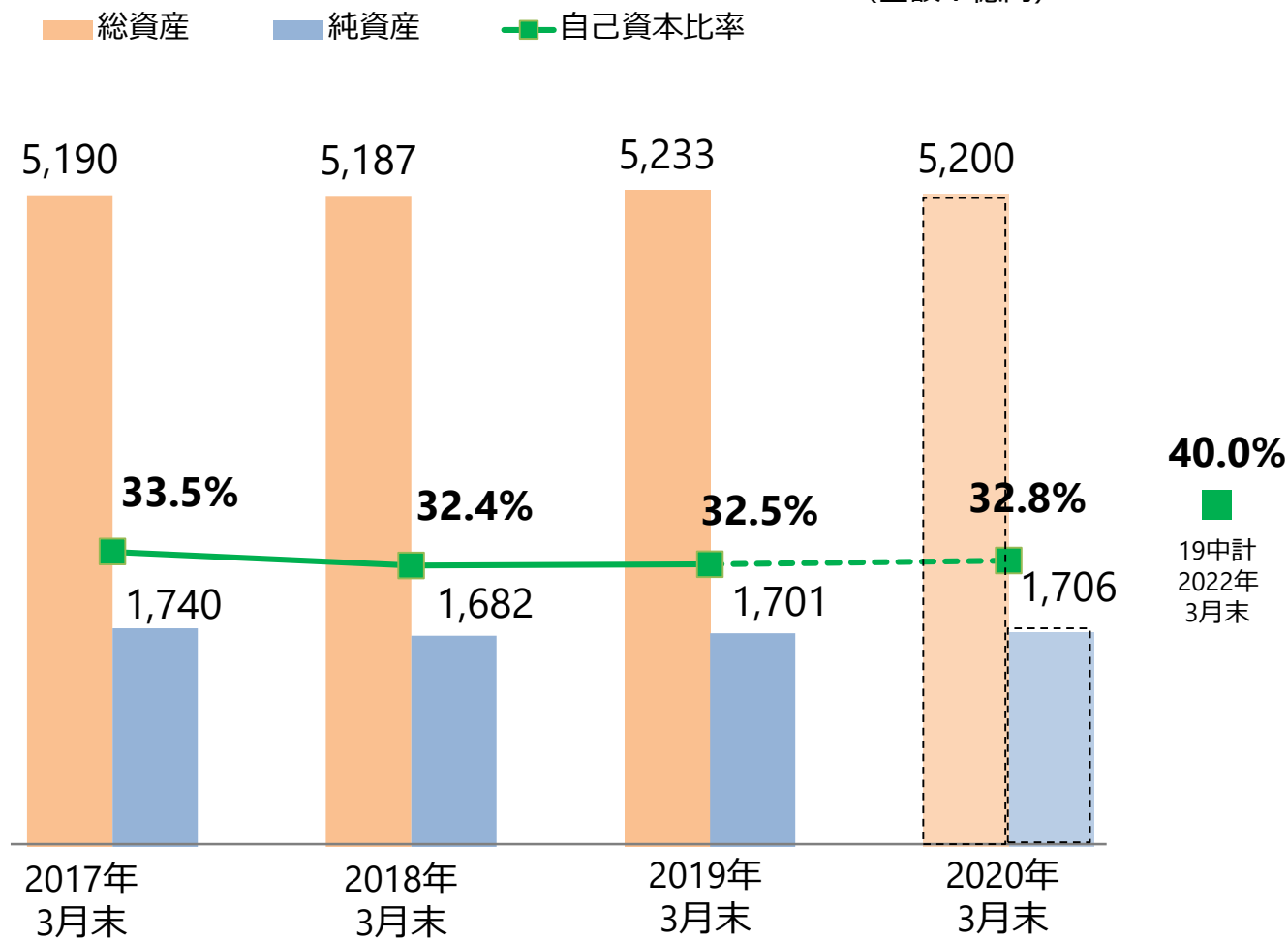
● 実力損益推移 (在庫要因、カセロネス減損除く)

(単位：億円)



● 自己資本比率推移

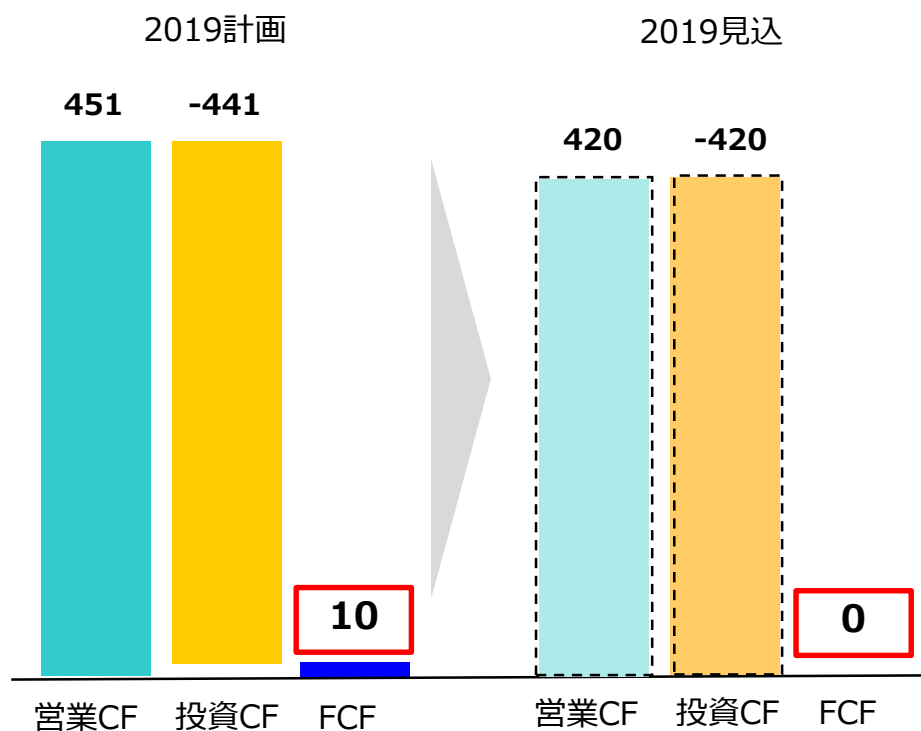
(金額：億円)



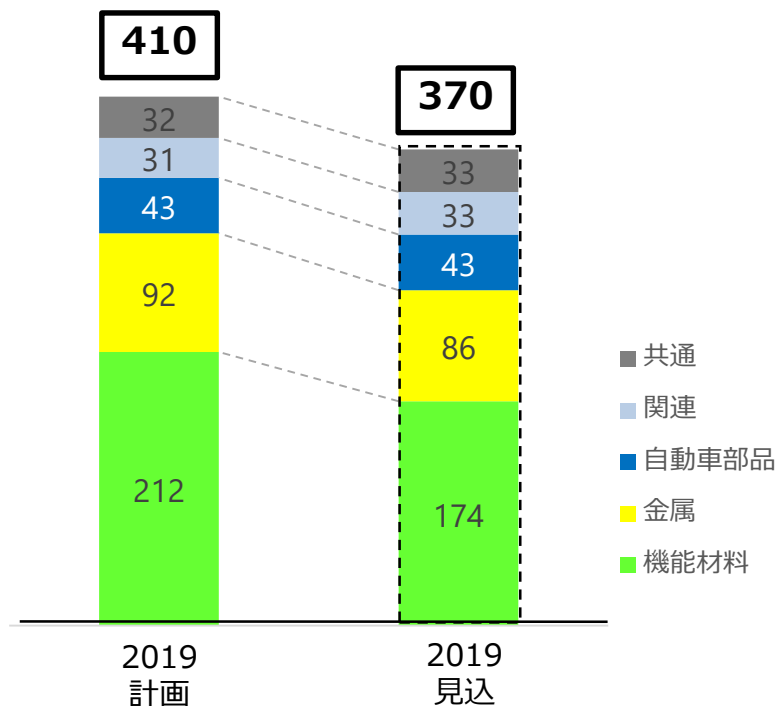
■ キャッシュフローおよび設備投資

業績悪化による営業キャッシュフロー減少に伴い、設備投資を圧縮する

● キャッシュフロー（対期初計画） （単位：億円）



● 設備投資内訳（対期初計画） （単位：億円）



■ 19年度プレスリリース案件

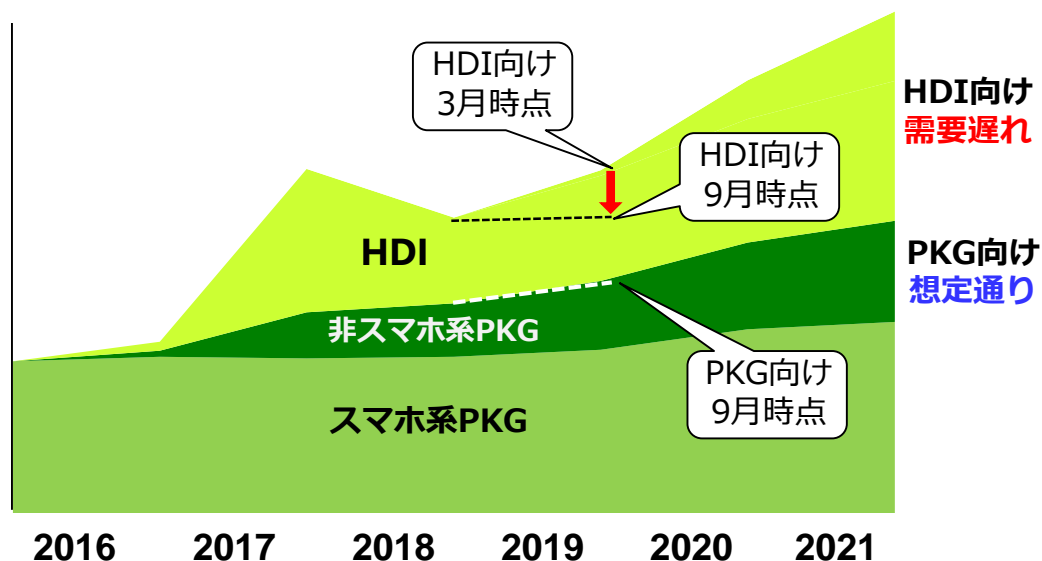
セグメント・事業部	プレスリリース案件	備考
銅箔	・ JX金属株式会社からの当社に対する訴訟等の提起について	・ 5/14 プレスリリース
銅箔	・ 高周波基板用電解銅箔「VSP®」の増産起業完了について	・ 6/4 プレスリリース (P9 参照)
研究開発	・ 環境エネルギー領域ベンチャーへの出資についてのお知らせ ～ Atomis への出資 ～	・ 7/1 プレスリリース
触媒	・ [※] 四輪向けガソリンエンジン用GPF触媒を開発 ～ 2022年量産開始に向け設備立ち上げ準備 ～	・ 7/11 プレスリリース (P10, P11 参照)
金属事業部	・ 水力発電所の運転停止についてのお知らせ ・ 水力発電所の運転再開についてのお知らせ	・ 8/8 プレスリリース ・ 8/29 プレスリリース

※GPF : Gasoline Particulate Filter
(ガソリン・パーティキュレート・フィルター)

PKG向けMicroThin™は、5Gに関連して予測通りの需要にて増加トレンド変わらず。
HDI向けMicroThin™は、スマホ販売減等により伸長せず。2021年の本格5G化を待つ

※ PKG : パッケージ基板、 HDI : High Density Interconnect (高密度実装基板)

MicroThin™の需要予測



HDI向け
乖離原因

- ・ 採用層数の減少
- ・ 新規採用の遅れ
- ・ スマホ販売減
- ・ 顧客の生産効率化 等
- ・ HDI向け競合参入

- HDI向け :
2019年はスマホ販売減等により
前回計画比で需要は減じたが、
2020年以降は
 - ・ 5G適用スマホ増加
 - ・ 中華系の新規採用加速
により需要増を見込む

- PKG向け :
非スマホ系用途 (外部メモリー、
※GPU等) の需要増は予測通り順調。
今後も5G進行に伴い堅調な伸びが
見込まれる

※GPU : Graphics Processing Unit
(画像処理用演算装置)

5Gロードマップ



- 2019年から5G関連分野で市場が立ち上がり、2021年には本格化する見込み
- 更に、2nd step (フル仕様) が始まる2022年以降は急成長が期待できる

5G関連市場向けハイエンド電解銅箔

(2018年を100とする)

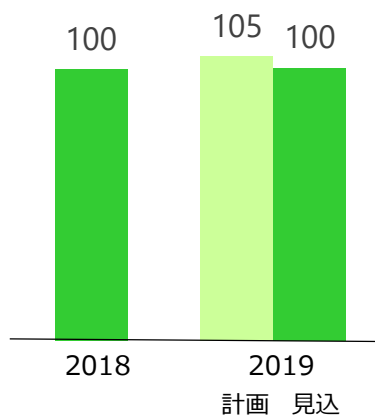


- 高周波向け：
5G関連市場向けハイエンド銅箔が伸長し、2年前倒しの需要を見込む
 - ・5Gインフラ設備機器での指定増加
 - ・新規認定獲得増加
- ⇒ 次年度以降、更なる需要増の見込み (ミドルレンジ銅箔の需要も好調)

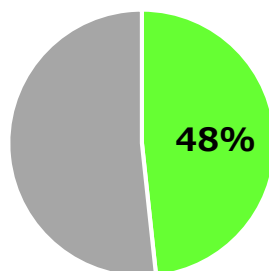
【用途】 サーバー、ルーター、基地局向け

二輪向け触媒販売見込み

(2018年を100とする)



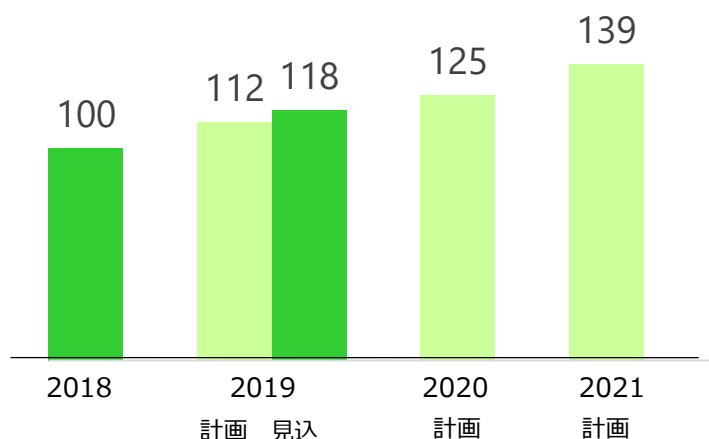
二輪向け触媒販売 インド比率 上19実績ベース



- 2019年度二輪向け触媒販売量は計画対比で若干未達、昨年並みの見込み
- インド向け販売量は上期から下期にかけて回復基調と見ているが、市場の回復次第ではトータル販売量が対前年比下振れの可能性あり

四輪向け触媒販売見込み

(2018年を100とする)



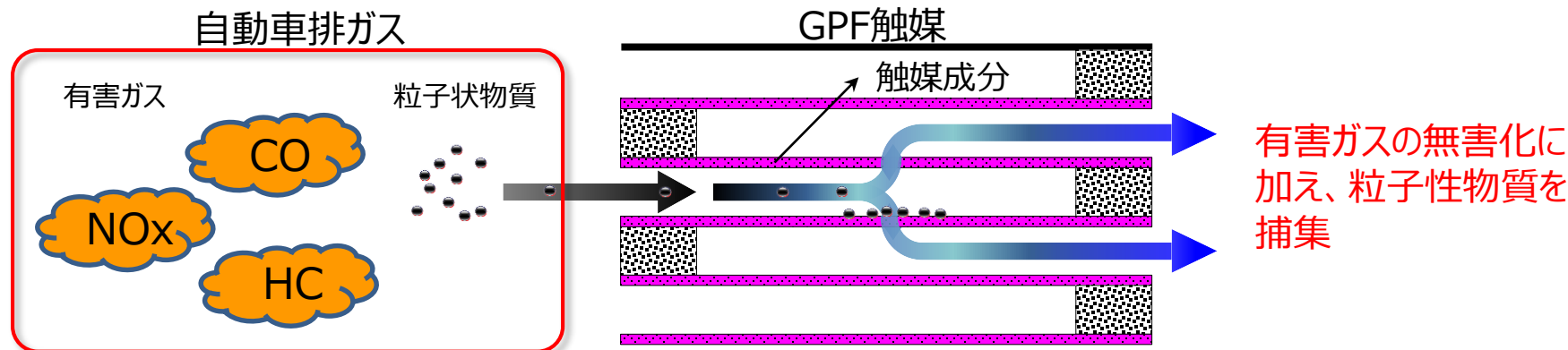
- 世界的な自動車市場の減速懸念も、四輪向け販売量は計画通り増加見込み
- 主要顧客の2021年度メイン車種採用に続き、2023年度車種にも採用予定
- 四輪ガソリン車用GPF触媒※を開発。性能が評価され、2022年より量産車に採用予定

※ GPF触媒のメカニズムは次頁参照

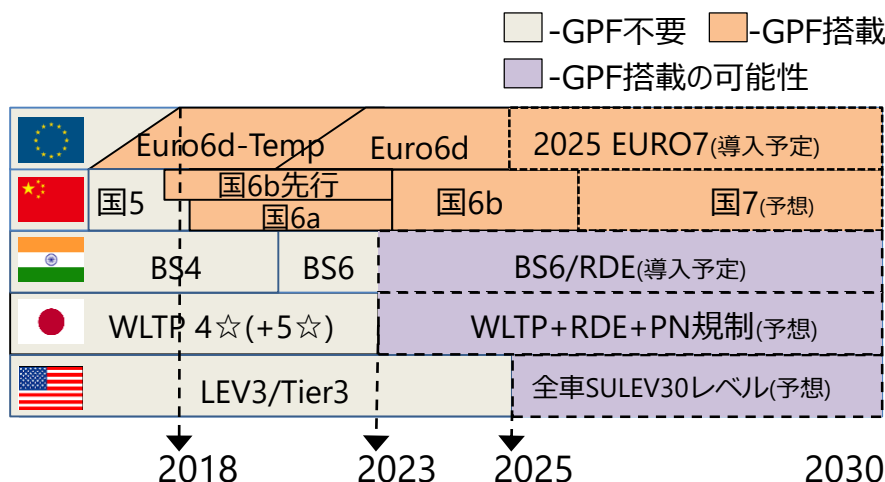
■ 機能材料セグメント - 触媒事業部 (2)

GPF触媒のメカニズム

GPF触媒：自動車排ガス中の有害ガスおよび粒子状物質を分解・除去して無害化する触媒



自動車の排ガス規制動向とGPF触媒



- 欧州、中国に加え、インドや北米なども規制強化を検討しており、GPF触媒の市場は拡大基調
- GPF市場拡大に伴い、既存の触媒との置き換えが進むが、他社と差別化できるGPF触媒で四輪向け触媒の拡販を目指す

※WLTP：国際調和排出ガス・燃費試験法 (Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure)

※RDE：Real Driving Emission

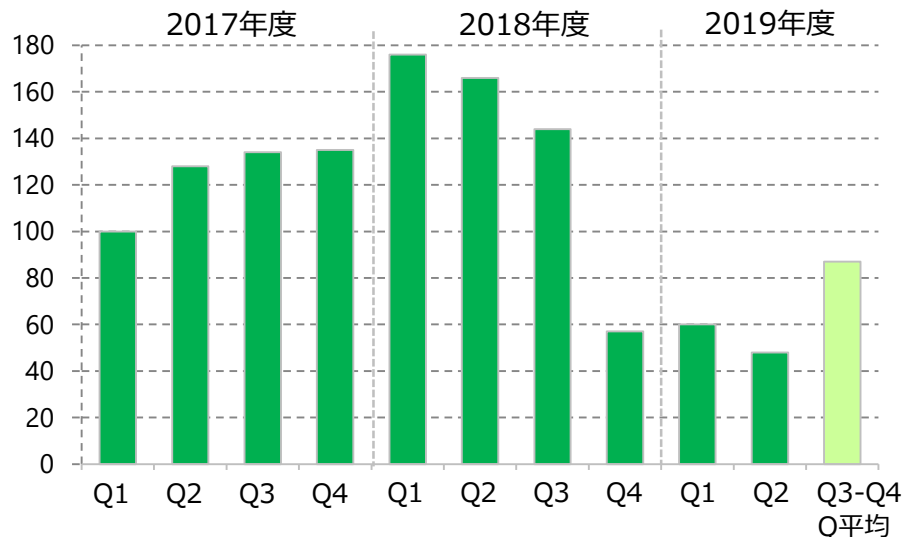
※PN規制：粒子数規制 (Particulate Number)

※LEV：Low Emission Vehicle

■ 機能材料セグメント - 電材向け銅粉、ITOターゲット

マテリアルの知恵を活かす

電材向け銅粉販売量 (17Q1を100とする)

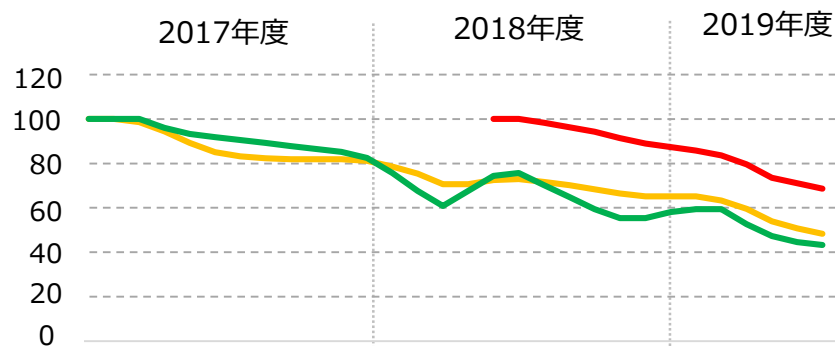


- 下19に回復する見込だが、低水準に留まると見ており、本格的な回復は2020年度以降の見込み
- 生産体制増強（2018年8月2日プレスリリース）のうち、神岡工場の増強は完了、彦島新工場の一部延期を決定

所在地：神岡（岐阜県飛騨市）
彦島（山口県下関市）

薄膜材料（ITOターゲット）

液晶パネル価格推移 (17年4月を100とする) (65インチ: 18年8月を100とする)

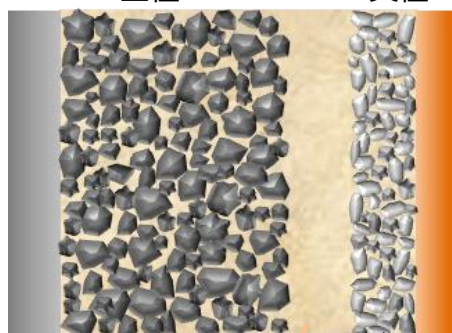


- 液晶パネルメーカーの業績悪化により顧客からの値下げ圧力の強まり、競合との価格競争により、ITO収益性が悪化
- 生産調整を行うメーカーも出ており、ITO販売量は減少見込み
- 事業環境の急激な悪化を受け、社内で抜本的な事業改善スタディを実施中

全固体電池用材料開発の進捗

全固体電池構造のイメージ図

全固体電池
(ラミセル)



正極活物質 固体電解質 (難燃性) 負極活物質



※ LIBTEC製作

- 硫化物系固体電解質
車載向けの進捗について概ね順調。
現在、月産数トン製造可能な試験棟
(パイロットプラント) を設計中
→ 2019年11月設計完了予定
→ 順調に行けば、2020年12月完成。
2022-25年頃に量産開始
- 正極材・負極材
5V正極やシリコン負極など、当社
硫化物系電解質に適した開発を加速
- 車載用以外での取組み
マクセル株式会社様にて当社電解質を
用いた全固体電池のサンプル出荷開始
(2019年9月20日マクセル様プレスリリース)
→ 実用化に向けた大きな一歩。
車載向けに先駆け、特殊用途での
量産化を早期に実現する

(ご参考) 全固体電池の特徴

- ・ 難燃性のため安全性が高い
- ・ 高エネルギー密度化が可能
→ 電気化学的に安定性が高く、
様々な材料が適用可能
- ・ 急速充電に対応可能

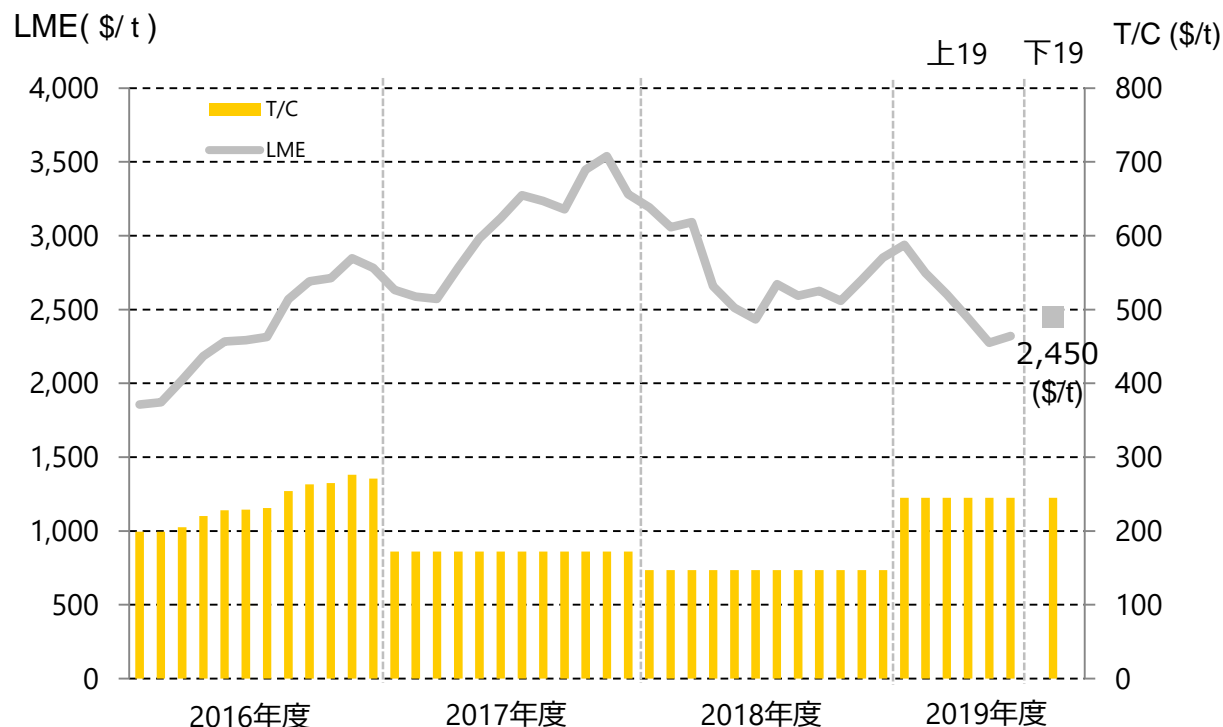
(19年上期)

需給緩和の先安感をリスクオフの動きが後押しする形で一時2,200\$/t 台まで下落

(19年下期)

足元リスクオフムードの後退により価格が上昇していることから、2,450\$/tと見る

● 亜鉛価格とT/Cの推移



(ご参考)

T/C	203\$/t	172\$/t	147\$/t	245\$/t
Benchmark	(2,000\$/t)	(-)	(-)	(-)

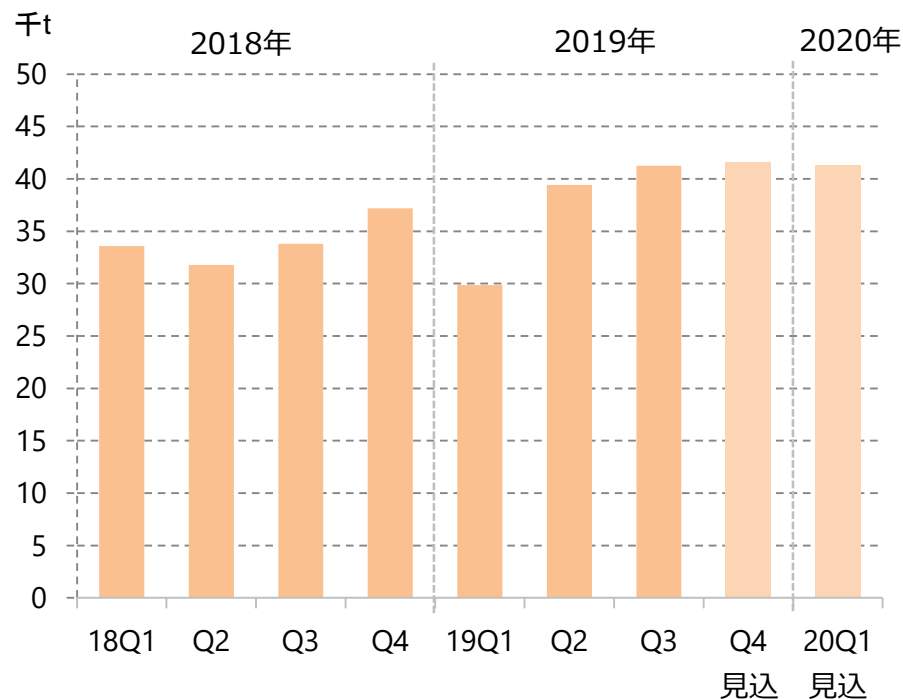
■ 金属セグメント - 銅統括事業部 (カセロネス銅鉱山)

マテリアルの知恵を活かす

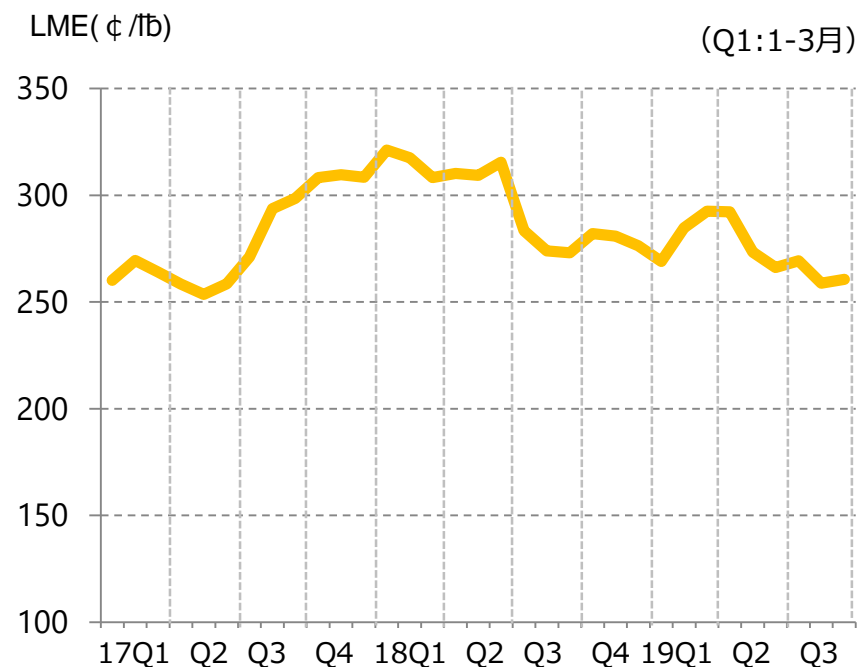
2019年度は操業が安定。銅生産量は改善傾向が見られる。

今後は更なる操業安定化や生産改善を進め、継続的なコスト削減に取り組む

● 銅純分ベース生産量推移 (Q1:1-3月)



● 銅価格推移 (2017年1月-2019年9月)



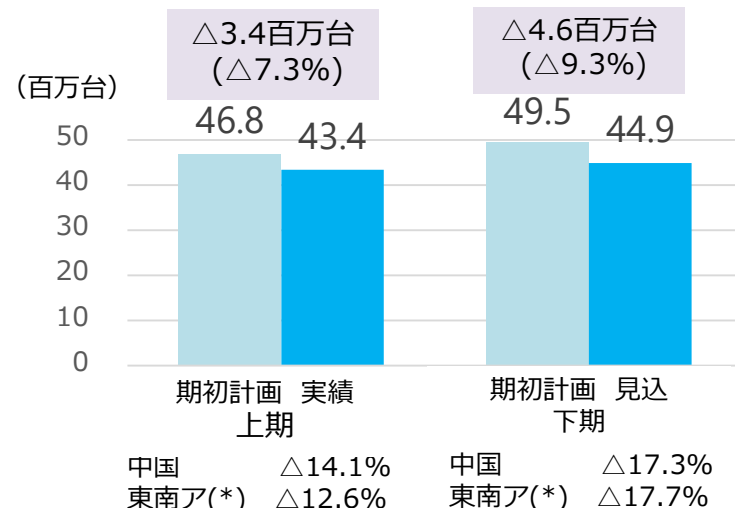
■自動車部品セグメント（三井金属アクト）

足元の事業環境

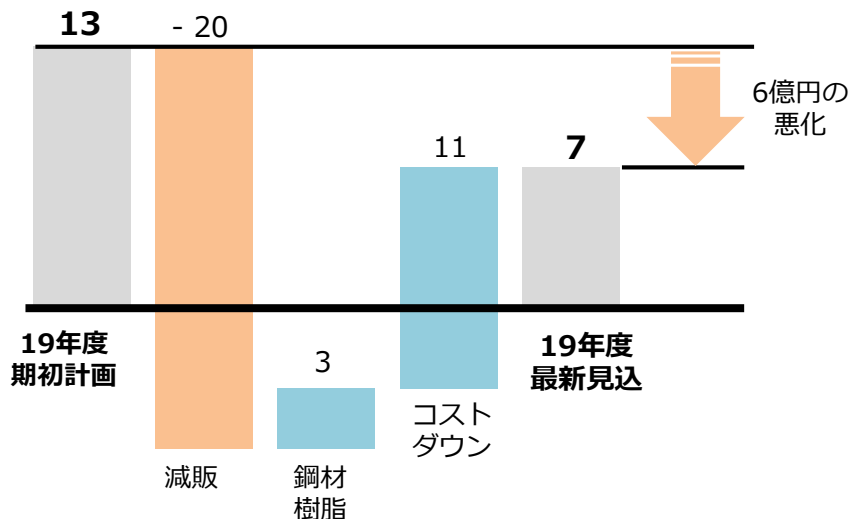
- 世界経済減速、世界自動車生産台数低迷
 - ・ 中国自動車市場の低調継続
 - ・ タイ・インド市場の悪化
- 米中貿易摩擦の影響
 - ・ 中国から米国への供給部材に対する追加関税

グローバル自動車生産台数の変化

期初計画 → 実績/見込 出典：IHS Markit



19年度業績予想について（金額：億円）



(*) 東南アジア：ASEAN/オセアニア/インド亜大陸を含む

- 中国だけでなく、他の地域でも市場の改善が見られず大きく減販
- 原価低減活動を加重・加速化して計画以上に進めるも、減販の影響を穴埋めできず

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、様々な既存のリスク、未知のリスク、不確定要因等を伴っているため、実際の事業環境・事業活動は、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性もあります。

本資料は、将来の見通しに関する記述の中で使用されている目標、想定、期待、予測、計画、評価等の情報が正確である、または将来その通りになるということを、当社が保証したものではありません。

将来の見通しに影響を与うる潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、潜在的リスクや不確定要因がその項目ですべて網羅されている訳ではありませんので、その旨ご留意ください。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。したがって、皆様が実際に投資なさる際には、本情報に全面的に依拠して判断を下すのではなく、あくまでご自身で投資の可否をご判断くださいますよう、お願いいたします。